

真理はわれらを自由にする

別府大学 司書課程

# News Letter

## 『司書課程ニュースレター』 創刊にあたって

別府大学司書課程委員会  
委員長 工藤 邦彦



別府大学文学部司書課程は、約半世紀の間、多くの卒業生が図書館現場の最前線たる司書として大分県内・外の各種図書館に勤務され、わが国における図書館活動の充実・発展に寄与してまいりました。これはひとえに本学司書課程・司書講習の運営に携わった歴代関係者のご精励の賜物と存じます。特に本年3月末日をもって、定年退職されました佐藤允昭先生の長きにわたる課程・講習運営のご労苦に対し、この場を借りて深く感謝申し上げます。

さて、司書課程では、2010年まで刊行してまいりました『司書課程年報』をより発展するかたちとして、昨年12月に別府市で開催された『子どもと本をつなぐネットワークフォーラム』（文部科学省・大分県教育委員会共催）での出展にあわせた『ニュースレター特別号』を発刊いたしました。これを契機に、正式に『司書課程ニュースレター』第1号を発刊する運びとなりました。ニュースレターでは、司書課程の運営・事業内容および司書講習の実施全般をわかりやすく紹介するとともに、本学におきます司書養成教育の“現在（いま）がわかる”をモットーに誌面づくりをしてまいります。

本年4月より、新しく石川賀一先生が着任され、すでに司書課程に新風を吹き込んでいただいております。今後、課程教員両名の責務として、本学司書養成の歴史と伝統をしっかり受け継ぎ、さらに発展させるべく努力精進してまいります。

首都東京での2020年夏季五輪招致が今夏正式に決まりました。これからの若い世代に向け、魅力溢れるライブラリアン養成のため、皆さまのご協力をなにとぞよろしくお願い申し上げます。

## 図書館の思い出 ～私の図書館体験記～

### 本と図書館についての思い出

高校までは図書館に行くことはほとんどなかった。読書も語るほどのことはしなかった。

読書が日々の習慣となったのは大学に入って数か月たってからであるが、それからは今日まで途切れることなく続けている日々の親しく重要な営みである。

東京での学生時代は多少読書もしたが、同時に本屋にほとんど毎日行っていた。その上「日本読書新聞」や「週刊読書人」や「図書新聞」などもよく読み、神田の古本屋にもたまに行っていた。またいろんな学者や作家の読書論を好んでよく読んだ。不思議と図書館にはほとんど行っていなかったが、学生時代のこのような生活から本を読むことだけでなく、いろんな本について知ることが趣味となった。それによって広大な図書の世界、人類の知的創造の世界にわずかながらも参入して生きるという、人生の豊かな過ごし方と思えるものを享受できるようになったと思っている。

研究者になってからも長い間あまり利用することのなかった図書館に行くようになったのは、留学時代を別にすれば、本学の建学の精神について調べるようになってからである。

この目的のために内外のいろんな図書館に行ったが、それについては別の機会に書きたいと思う。



佐藤 瑠威  
(別府大学附属図書館長)

### 中学生、図書館分館、夏の日

私と公共図書館の出会いは、中学2年生の夏であった。夏の日差しの強いある日、私は中学校の近くの市立図書館分館（だったと思う）へ、初めて行った。私には、マンガで読み知った新撰組の沖田総司に関する本を借りるという目的があった。その頃、沖田総司はすでに女性に人気がある人物だったから、年ごろのせいか人に知られると恥ずかしいという気持ちがあった。目当ての本を数冊借りて、知り合いに合わないようにと心配しながらそそくさと図書館を出た。図書館を出ると、ひんやりとした日陰の感触があったことを覚えている。

その夏中学校の自主研究で、私は東京のあちこちの新撰組所縁の場所へ行き、写真を撮り、模造紙に貼り付けたものを「新撰組訪ね歩記」として発表した。いわゆる「調べ学習」をしたわけであるが、その頃はそういう意識もなく、自分が興味を持っていることを大人の真似をして調べてみたいという欲求からしたのだと思う。これをきっかけに、一人で電車やバスに乗って行きたい場所に行くことや、知らない場所で知らない人に尋ねながら目的地まで辿り着く度胸ができた。この経験が、歴史学ではないが、方言探究という仕事の基盤になったと今では思っている。



松田 美香  
(国際言語・文化学科)

### 大村はまと学校図書館

昨夏、第38回全国学校図書館研究大会米子大会に参加できた。大会実行委員で発表者でもある伊木洋先生がファックスで早々と情報を送ってくれたし、のんびり構えている私に、2～3日で2000人を超えてしまうからとにかく急いで、と再度督促してくださったおかげである。姜尚中氏の講演も拝聴でき、満ち足りた3日間を過ごせた。

授業に学校図書館を利活用したのは、大村はま氏である。読書センター・学習・情報センターとして、大田区立石川台中学校の学校図書館がはま先生の教室であった。当時東京教育大学教授で、はま先生の支援者・助言者であった倉澤栄吉氏が内地留学生や院生を伴って定期的に大村はま国語教室を訪れていたし、全国からの授業参観者・研究者もあふれていた。たくさんの資料を駆使する大村単元学習には、教室は図書館でなければならなかった。ここから、たくさんの読書生活者が巣立っていった。それは、○読書の習慣、読書の記録を残す習慣をつけ、読書生活を確立させた、○問題解決のための読書に対して、問題発見のために読み、○目的に応じて適切な本を選んで読み、○目のつけかたを広くし、○アンケートや統計を読む、大村はま国語教室の教え子たちであった。

今、新学習指導要領のもと、授業は学校図書館なくしては成立しない。学校図書館は、そのような授業にこたえるべく脱皮し、変貌しているであろうか。



後藤 弘子  
(司書課程)

## TOPICS

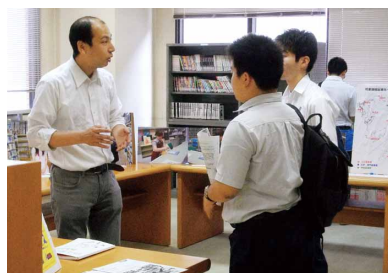


### 附属幼稚園に学生の手作り絵本が読めるブラウズリーダーを設置

今年の5月10日、別府大学附属幼稚園の「絵本の部屋」にブラウズリーダーを設置しました。ブラウズリーダーとは、大分大学の中島誠先生とゼミ生が開発したタッチパネル式の図書検索・閲覧システムで、「図書館サービス特論（絵本作り）」の受講生が作成した絵本も電子絵本として収録されています。これらの電子絵本は、同科目担当の川野洋子先生が子ども達にも是非読んでもらいたいと選んだ作品です。

説明をきいた園児たちはさっそく画面にふれ、かわりがわりにあられる絵本の画像を楽しんでいました。なかでも文字を読める子どもたちの関心は高く、

外遊びのできない雨の日は電子絵本がよく利用されているそうです。形態の違いはありますが、手作り絵本を通じて、子どもたちの読書活動が豊かになることを期待したい。



### オープンキャンパスで司書課程を紹介

司書課程では7月15日に開催された別府大学・別府大学短期大学部合同オープンキャンパスにあわせて、図書館2階に司書課程の紹介コーナーを設置しました。

見学された入学希望者の高校生や保護者のなかには「別府大学といえば司書養成」という評判をきいてやってきたという方も少なくなく、これまでの実績を実感することができる機会となりました。



### 特別講演「江戸の出版史」を開催

8月19日、司書講習特別講演「江戸の出版史」を開催しました。講演者の中野三敏先生は近世文芸の雅俗学の第一人者であるとともに、『和本のすすめ』（岩波新書）を刊行するなど和本リテラシーの普及活動に取り組まれています。

講演では、和本の知識や変体仮名を読み説く力がなければ当時の文化を理解し、伝えることはできないという指摘がありました。和本リテラシーの育成は様々なメディアを提供する図書館にとっても重要な課題であり、有意義な講演となりました。

## 図書館のお手伝いしてみませんか？ [サークル紹介]

はじめまして！私たちは別府大学図書館の友“FOBUL”です。FOBULは図書館に関心のある学生によって結成された学生サークルで、名称は“Friend Of Beppu University Library”の頭文字を組み合わせたものです。ちなみに来年で20周年になります！さらに活動力をアップしていきます。来年はマスコットキャラの「フオビットちゃん」が、図書館内にたくさんいるかもしれません（笑）。くまモンには負けません！！

脱線しかけましたが、主な活動は別府大学附属図書館のボランティア活動です。曜日ごとに分けられたグループが、空き時間を利用して返却資料の配架や書架を整理しています。オープンキャンパスでは、図書館の会場準備や館内案内とともに、図書館見学ツアーのレポートなどサークル活動の紹介もおこなっています。毎週火・金曜日の昼休みには部会を開き、メンバー全員で図書館の利用向上や活性化について話し合っています。また部会では自分が推薦する本やその魅力を紹介し、本の楽しさを語り合っています。そして月ごとに各部員が持ち寄った作品やテーマから、オススメの作品をピックアップし、図書館1階の展示コーナーで紹介しています。

FOBULの魅力は、図書館の運営活動に関われることです。そのため、本好きだけでなく司書を目指す学生も多いのが特徴です。資料の配架を通じて請求記号を覚えたり、附属図書館で働く司書さんたちのお話が聞けるなど現場ならではの経験を積むことができます。

図書館に興味がある人、本を読むのが好きな人はもちろん、ちょっと気になる人も是非遊びにきてください。ワイワイ語りあっています。毎週火・金曜の昼休みに43番教室でまっています！！

(平成25年度副部長 佐藤友香)

FOBUL  
マスコットキャラクター  
「フオビットちゃん」



## 別府大学司書課程、司書・司書補講習のあゆみと現状

別府大学では、図書館で働く専門職である司書養成の一環として、県下で唯一の司書課程を設置し、さらに夏季集中講義・演習形式による司書・司書補講習を開講しています。

司書養成教育では、現在の高度情報化社会において多様化する情報資源・技術を反映した図書館奉仕・情報サービスに主眼を置き、先進的な実学教育を実践しています。

### 司書課程

司書課程は、1961年の開講以来、約半世紀の間3,574人(2013年3月現在)の司書を社会に送り出しています。把握している本学卒業生の図書館・情報機関への就職先(2010年2月現在)は、公立図書館15人、学校図書館10人、専門図書館1人、大学図書館13人、市役所情報専門部署3人が現職として専門性を発揮しています。なお、司書課程修了者の卒業時における図書館への就職実績は表1のとおりです。

表1 過去8年間の図書館への就職実績

卒業年月	採用数(人)
平成18年3月	8
平成19年3月	4
平成20年3月	3
平成21年3月	4
平成22年3月	6
平成23年3月	12
平成24年3月	4
平成25年3月	3

昨今の厳しい雇用情勢にも関わらず、司書資格を取得した学生の多くが県内・外の図書館等で勤務しており、情報専門職＝司書として図書館運営の現場を支えています。

2012年4月から、図書館法施行規則の一部を改正する省令

表2 司書資格取得に必要な科目一覧

区分	科目	単位		
必修科目	基礎科目	生涯学習概論	2	
		図書館概論	2	
		図書館情報技術論	2	
		図書館制度・経営論	2	
	図書館サービスに関する科目	図書館サービス概論	2	
		情報サービス論	2	
		児童サービス論	2	
	図書館情報資源に関する科目	情報サービス演習I(情報検索)	1	
		情報サービス演習II(レファレンス)	1	
		図書館情報資源概論	2	
		情報資源組織論	2	
		情報資源組織演習I(目録)	1	
	選択科目	2科目選択	情報資源組織演習II(分類)	1
			図書館基礎特論	1
図書館サービス特論(絵本作り)			1	
図書館情報資源特論			1	
図書・図書館史			1	
図書館施設論			1	
図書館総合演習(読み聞かせ・ブックトーク)			1	
図書館実習	1			

が施行されたことを受け、本年度より司書資格取得に必要な科目に関するカリキュラムの変更を行いました。表2のとおり、図書館情報学に関わる基礎科目や図書館サービス・情報資源に関する科目、および選択科目(計24単位)を履修することで、司書資格の取得ができます。本学では図書館サービス特論において、絵本作りを、図書館総合演習では、読み聞かせ・ブックトークを行うなど、特色ある授業を数多く展開しています。

また、教員免許状の取得とあわせて、児童・生徒の健全な教養の育成と読書活動、資料活用を目的とした学校図書館の運営に従事する司書教諭の資格取得も可能です。(表3)

表3 司書教諭資格取得に必要な科目一覧

必修科目	単位
学校経営と学校図書館	2
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性	2
情報メディアの活用	2

### 司書・司書補講習

別府大学では、1961年以来、文部科学大臣委嘱の「司書・司書補講習」を実施しています。2013年度に全国13大学で「司書・司書補講習」が行われましたが、中でも本学の歴史は古く、開講当初より、わが国の図書館界に大きな足跡を残した諸先生方が講師に名を連ねるなど、すぐれた講師陣と恵まれた教育・宿泊環境などと相まって「司書講習の別府大学」として、高い評価を受けています。これまで(2013年度現在)司書6,493人、司書補3,409人、計9,902人の修了者を出し、その多くが全国各地の図書館で活躍しています。

このほか、2004年から、毎年「子どもの読書活動推進研修会」を実施し、学校図書館司書など子どもの読書活動に携わっている人々に研修の機会を設けています。また、2009年には、小・中学校教師向けの研修用DVD教材「深め発見する喜び 言語力とメディア活用能力の向上を目指す教師の支援」を作成し、県内の小・中学校に配布しました。2009年度からは、図書館の現職者を対象に情報提供能力、コミュニケーション技法の能力開発に主眼を置いた「スキルアップセミナー」を開催し、好評を博しています。

司書講習は、多様なバックグラウンドを有す人材を司書として養成できる唯一の方法であり、幅広い知識と視野の獲得を目指す実学教育に主眼を置いています。